

国際文化学科新カリキュラムの本格的始動

国際文化学科長 川口喜治

昨年度の学部学科再編により発足いたしました新たな国際文化学科は、「多文化理解と他文化との交流能力の育成を目的とし、文化や社会の国際化、地域の国際化（学生をはじめとする地域の人々が多様な価値観や視点の存在を理解すること）といった時代の変化や社会のニーズに対応するため、言語コミュニケーション能力や国際的な視点に立った文化理解力、それに基づく行動力などの実践的な能力を備えた人材の育成を目指す」ことを教育理念としています。この能力養成を特化するという意味で、学生は2年次から国際文化系、言語コミュニケーション系に分属します。国際文化系は、異文化・多文化理解の知識や能力、国際的な視野に立った行動力、英語・中国語・韓国語の「話す・聞く」能力などを養成します。言語コミュニケーション系は、英語コース・中国語コース・韓国語コースからなり、各コースにおいて、各言語の「話す・聞く・読む・書く」能力を養成します。また各言語圏に関わる社会や文化、言語・文学について学びます。

この新カリキュラムは本年度より新2年生が専門課程に入り、本格的に立ち上がりました。また新たな学生を迎えることができました。2年生は、所属する系やコースが提供する学習のモデルに沿いつつ、自己の関心や興味に従って専門的な学びをはじめました。教員の指導を受け、学生ひとりひとりが学びの視座をしっかりとさせてゆくでしょう。併せて重要なのは、上級生として下級生を引っ張るなかで様々な学びを実践し、自己を向上させる場が備わったことです。一方、1年生は昨年1年生が享受できなかった先輩の導きを受けることができます。この良き連鎖を継承発展させてゆくことが、学科教員に課せられた大きな仕事といえます。本学科では、あまたの勤勉な教員が日々の教育にひたむきに力を注いでおります。皆様のますますのご支援、叱咤激励をよろしくお願い申し上げます。